

## ペット同行避難

災害時にペットを守ることができるのは飼い主だけです。避難が必要か判断することはもちろん、ともに安全に避難し、周りの人へ迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日頃からの心構えと備えが必要です。

### 所有者明示

ペットが迷子になった場合や犬の登録確認に必要です。

- 犬は鑑札と注射済票を装着する(犬の登録は法律で義務づけられています)
- 首輪や迷子札に連絡先などを明記しておく
- マイクロチップ(はずれる心配のない身元証明)を装着する

### しつけ

他者への配慮やペットのストレス軽減につながります。

- キャリーバッグやケージに入ることに慣らしておく
- 人や動物を怖がったり、攻撃的になったりしないよう慣れさせておく
- 吠えたり、鳴いたりしたときの対処法を身につけておく
- 決められた場所で排泄できるようにしつける

### コミュニケーション

家族と話し合いを持ち、ご近所とも連携しましょう。

- 様々な場面を想定して、家族やご近所、飼い主仲間と防災について話し合っておく
- 親戚や友人知人宅を避難先にできるか、お互いに協力できるか話し合っておく
- 台風等事前に準備できる災害では、避難場所等への避難が困難なペットは、避難先(ペットホテルや車両避難場所)を検討しておく



### 健康管理

ペットの健康管理は、社会との共存のためにも必要です。

- 各種予防注射を受ける(犬の狂犬病予防注射は年1回の接種が法律で義務づけられています)
- ノミ、ダニの予防を行い、体を清潔に保つ
- 不妊、去勢手術を受ける



### 避難用品

災害時のペットの備えは、基本的に飼い主の責任で用意します。

- 療法食、薬、5日以上分のフードと水、食器
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- ペットシーツ、ビニール袋、洗濯ネット(猫の逃げ出し防止)、タオル等
- 飼い主の連絡先やペットの情報を記録したもの

## 車両による移動・避難

地震が起こった際は車で避難すると、避難場所やその周辺が車で混雑したり、救護活動もできなくなってしまうため、車での避難は止めましょう。

なお、風水害においても車両避難が可能な指定緊急避難場所(洪水・崖崩れ)以外は、原則車両避難ができません。要配慮者の方等に向け、一部車両避難が可能な場所もありますが、台数も限られていますので、事前にご確認ください。

### 車両避難をする場合に気をつけるべき事項

#### ● 正確な情報収集と早めの避難

テレビ、ラジオ、インターネット等での最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。



#### ● 危険な場所を通らない

台風や大雨の際は、急な道路の冠水や川の増水が起こりやすくなっています。避難時には、川沿いや海岸沿いのほか、高架下や立体交差のアンダーパスなど周囲より低い場所には絶対に進入せず、迂回しましょう。

安全なルートを通って移動できるよう、危険な場所をあらかじめ確認しておこう。



#### ● 水位が上がったときの車両避難はしない

水位が上がってからは、車での避難は大変危険なため、やめてください。

### 車両避難を行った後に気をつけるべき事項

#### ● こまめな換気を

一酸化炭素中毒を避けるために、こまめな換気をすることや、温度対策として服装での体温調節ができるようにしましょう。

#### ● 基本的なマナーを守る

騒音を出したり、ゴミをその場に捨てて帰るなどをしないようにしましょう。

#### ● エコノミークラス症候群の予防

車内で同じ姿勢でいることを避け、適度に運動をしましょう。



同行避難の可能な避難場所等をチェックしておこう。  
詳細は藤沢市ウェブサイト「ペットの防災について」をチェック!  
[https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/seiei/pet\\_bousai.html](https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/seiei/pet_bousai.html)

